【Create!Form】Java証明書の脆弱性に関する対処について

2026年11月9日
インフォテック株式会社

本資料は、PrintStageWebClientに同梱されているJavaの証明書に関する脆弱性と、その対処方法をまとめたものです。対象製品と、証明書の削除手順を以下に記載します。

項目	内容
Create!Form製品名	PrintStageWebClient
対象バージョン	V12.0／V12.1／V12.2／V12.3
対象OS	Windows

■ 1. 対象の脆弱性

公表日	脆弱性番号	問題と対策の内容
2026年10月21日	**CVE-2026-91403**	侵害されたeMudhraの中間認証局に関連する証明書を、Javaが信用してしまうおそれがある問題です。相手になりすました偽の証明書を受け入れると、通信内容の盗み見・改ざんにつながるおそれがあります。公式告知
2026年10月24日	**CVE-2026-114820**（JDK-8395690）	同じ証明書事故に関連し、信頼ストアから対象4ルートを削除する追加対策です。公式告知

■ 2. 作業前の確認

作業には、対象ファイルを更新できる管理者権限が必要です。Webクライアントのサービスは、`vender\Jre`で動作します。

項目	内容
対象サービス	Create!Form WebClient Service V12（サービス名：`cfwcd12`）
対象Java	製品に同梱されている`vender\Jre`
使用するコマンド	4.2のコマンドを、すべての対象バージョンで共通して使用

対処には、製品同梱の`cacerts`と、存在する場合は`cf_cacerts`内の対象証明書を削除します。**証明書ストアのファイル自体は削除しないでください。**

対象ルートで発行された正当な証明書も、信用されなくなる場合があります。作業後は、実際に使用しているHTTPS連携などを確認してください。

2.1 対象の証明書ストア

Java内の`cacerts`と、存在する場合はデータ領域の`cf_cacerts`が対象です。**`cf_cacerts`が存在する場合は、両方から対象証明書を削除してください。**

ファイル	標準の場所
Java内の`cacerts`	`C:\Program Files\Infotec\CreateForm\12\vender\Jre\lib\security\cacerts`
`cf_cacerts`	`C:\ProgramData\Infotec\CreateForm\12\conf\private\security\cf_cacerts`

V12.3以降の環境では、`cf_cacerts`が存在する場合、Webクライアントは`cf_cacerts`を信頼ストアとして使用します。

V12.0／V12.1では`cacerts`のみが対象です。V12.2は環境に応じて自動で判定します。V12.3など`cf_cacerts`も必要な場合に`cf_cacerts`が見つからないと、ファイルを変更せずエラーで停止します。

■ 3. 削除対象の証明書

削除対象は次の4種類です。同梱Javaによって登録されている証明書の種類や登録名が異なり、バージョンによっては一部が元から登録されていません。

ルート証明書の名前
emSign Root CA - G1
emSign Root CA - G2
emSign ECC Root CA - G3
AAA Certificate Services

コマンドは証明書の指紋（SHA-256）または証明書名で対象を判定して削除し、削除後に対象の証明書が残っていないことを確認します。元から存在しない対象証明書は削除せず、処理を続けます。

■ 4. 対処方法（Windows）

配布ファイル`CreateFormCertWorkaround.zip`を保存し、次の準備をしてください。

1. ZIPファイルを右クリックして「プロパティ」を開きます。「許可する」が表示されている場合はチェックを入れ、「適用」をクリックしてください。
2. ZIPファイルを右クリックして「すべて展開」を選び、展開先に`C:\CreateFormCertWorkaround`を指定してください。

3. スタートメニューで「Windows PowerShell」を検索し、右クリックして「管理者として実行」を選んでください。 ※ PowerShellが使える環境で実行してください

スクリプトファイルは編集せず、そのまま使用してください。

4.1 サービスを停止する

1. Webクライアントを使用した印刷処理が行われていないことを確認してください。
2. Windowsのサービス管理画面で「Create!Form WebClient Service V12」（サービス名：`cfwcd12`）を停止してください。

4.2 バックアップ・証明書の削除・確認を実行する

`webcli-remove-certificates.ps1`を使用します。管理者PowerShellで、次の1行を実行してください。

```
powershell.exe -NoProfile -ExecutionPolicy RemoteSigned -File "C:\CreateFormCertWorkaround\scripts\windows\webcli-remove-certificates.ps1"
```

バージョンを聞かれたら、使用している番号（入力例：`12.3`、`12.3.1.5`）を入力してEnterキーを押してください。`12.0`・`12.1`・`12.2`・`12.3`に加え、`12.3.1.5`のように端番まで入力できます。

導入先と設定先は、環境変数から自動で取得し、`INFO: 導入先：`と`INFO: 設定先：`に表示します。表示された内容が作業対象であることを確認し、`Y`を入力してEnterキーを押してください。`Y`以外を入力すると、ファイルを変更せずに中止します。続いて、対象ファイルの判定、バックアップ、証明書の削除、削除後の確認まで続けて実行します。

`Certificate removal and verification completed.`と表示されたら、表示されたバックアップと証明書一覧のフルパスを控え、4.3へ進んでください。エラーで停止した場合は、サービスを停止したまま、表示内容を確認してください。

4.3 サービスを再開する

「Create!Form WebClient Service V12」を開始し、Webクライアントからの印刷などが正しく動作することを確認してください。

■ 5. エラーが出た場合・元に戻す場合

表示・状況	対応
アクセス拒否	管理者として起動したPowerShellか、サービスが停止しているか、対象ファイルの書き込み権限を確認してください。ファイルを誰でも書き込める権限に変更しないでください
「デジタル署名されていません」「スクリプトの実行が無効」	ZIPファイルの展開時に、4の準備の手順1（ZIPファイルのプロパティで「許可する」にチェック）を実行していない可能性があります。展開済みのフォルダー（`C:\CreateFormCertWorkaround`）を削除し、手順1を実行してから、もう一度展開してください。
対処後にHTTPSやプロキシー経由の接続が失敗する	対象ルートに依存していた可能性があります。接続先の証明書チェーンを確認し、必要に応じて接続先側で変更してください。証明書検証を無効化しないでください
バックアップファイルが複数できている	スクリプトを実行するたびに、バックアップが作成されます。ファイルごとに、一番古いバックアップ（ファイル名の日時が最も古いもの）に戻すことで、今回の対処前の状態に戻せます。

誤操作などで元に戻す必要がある場合は、業務受付を止め、4.1に従ってサービスを停止してから、バックアップファイルを元の証明書ストアへコピーしてください。

バックアップを復元すると、削除した証明書への信頼も戻り、今回の対処前の状態になります。

バックアップは証明書ストアと同じフォルダーに、`cacerts.before-emudhra-`（`cf_cacerts`の場合は`cf_cacerts.before-emudhra-`）で始まる名前で保存されます。

5.1 バックアップを復元する

4.1に従ってサービスを停止してから、`webcli-restore-certificates.ps1`を実行します。新しく開いた管理者PowerShellで、次の1行を実行してください。

```
powershell.exe -NoProfile -ExecutionPolicy RemoteSigned -File "C:\CreateFormCertWorkaround\scripts\windows\webcli-restore-certificates.ps1"
```

バージョンを聞かれたら、削除時と同じ番号（入力例：`12.3`、`12.3.1.5`）を入力してEnterキーを押してください。導入先・設定先と必要なファイル数は自動で取得・判定します。表示された導入先・設定先が作業対象であることを確認し、`Y`を入力してEnterキーを押してください。

バックアップは、それぞれの証明書ストアと同じフォルダーから、最も古いものを自動で選びます。

表示・状況	判断
1ファイル構成で`cacerts`を復元し、`Restore completed.`と表示	正常完了です
2ファイル構成で両方を復元し、`Restore completed.`と表示	正常完了です
2ファイル構成で片方のバックアップしか見つからない	不足しているファイル名を表示し、どちらも復元せずにエラーで停止します

エラーで停止した場合は、サービスを停止したまま、表示内容を控えてサポート窓口へお問い合わせください。

`Restore completed.`と表示されたら、4.3に従ってサービスを再開し、正しく動作することを確認してください。

■ お問い合わせ

本件に関するお問い合わせは、Create!Formユーザーサポートサイトよりお問い合わせください。